

## 麻酔科

診療科名	麻酔科（文責者 輪嶋 善一郎）
科長名	輪嶋 善一郎（わじま ぜんいちろう）
診療科概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 麻酔管理に必要な専門的知識と臨床スキルを研鑽し、麻酔科標榜医、麻酔科専門医の取得を目指す。</li> <li>2. 麻酔科学の関連分野であるペインクリニックおよび集中治療医学を研鑽することができる。（ペインクリニック専門医および集中治療専門医の取得）</li> <li>3. 学位取得のための研究にも従事できる。</li> <li>4. 希望する他科への院内ローテーションが可能である。</li> <li>5. 国内留学（小児麻酔・産科麻酔など）が可能である。</li> </ol>
指定研修施設の名称	日本麻酔科学会、日本ペインクリニック学会、日本集中治療医学会
修養年限	3年
プログラム  1年次	<p><b>一般的目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 麻酔全般について知識を修得する。</li> <li>2. 各科麻酔について知識を修得する。</li> <li>3. 各科の医師と信頼関係を築ける。</li> <li>4. 初期研修医に基本的な事項を教えることができる。</li> <li>5. 主な術前合併症について知識を修得する。</li> <li>6. 重症患者の麻酔管理について知識を修得する。</li> <li>7. 術後管理について知識を修得する。</li> <li>8. 日本麻酔科学会の大会や地方会で発表する。</li> <li>9. 麻酔科専門医資格取得に必要な単位数を取得する。</li> <li>10. 適切な麻酔計画を立案できる。</li> <li>11. 外科医と周術期治療について討論できる。</li> <li>12. プライマリケアに必要な診療手技を行える。</li> <li>13. 心肺蘇生法を含む緊急処置が行える。</li> </ol> <p><b>術前評価に関する一般的目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病歴、身体所見、検査結果などから全身評価ができる。</li> <li>2. 気道確保困難など気道評価ができる。</li> <li>3. 全身麻酔の安全性や合併症、方法について患者にわかりやすく説明できる。</li> <li>4. 脊髄くも膜下麻酔に必要な術前評価ができ、長所と短所について患者に説明できる。</li> <li>5. 硬膜外麻酔に必要な術前評価ができ、長所と短所について患者に説明できる。</li> <li>6. 周術期管理に必要な薬物についての知識を身につける。</li> <li>7. 適切な前投薬を指示できる。</li> </ol>

### 麻酔管理に関する一般的目標

1. 適切な麻酔法を選択できる。
2. 侵襲の大きな手術の術中の輸液管理ができる。
3. 術中の異常な状態を早期に発見し、対処できる。
4. 大量出血に対して対処できる。
5. 心血管作動薬の持続静注を用いて血行動態管理ができる。
6. 肺機能障害を有する患者に対し、人工呼吸による呼吸管理ができる。
7. 血液ガス分析データに基づき、適切な治療ができる。
8. 異常体温の防止や治療など体温管理ができる。
9. 血液生化学データ異常値の治療ができる。
10. 「安全な麻酔のためのモニター指針」を理解し、モニタリングを使いこなせる。
11. モニタリングから得られるデータを正しく解釈できる。

### 麻酔に関連する手技取得に関する一般的目標

1. マスクによる気道確保ができる。
2. 経口あるいは経鼻エアウェイを正しく挿入できる。
3. 喉頭鏡を正しく使用できる。
4. 気管挿管による気道確保ができる。
5. 気管チューブの位置を確認し、固定できる。
6. 意識下挿管、気管支ファイバー挿管ができる。
7. ラリンジアルマスクなどの声門上器具による気道確保ができる。
8. 静脈採血ができる。
9. 太い静脈カテーテルを用いて静脈路確保ができる。
10. 乳幼児の静脈路確保ができる。
11. 脊髄くも膜下麻酔ができる。
12. 腰部硬膜外麻酔ができる。
13. 胸部硬膜外麻酔ができる。
14. 動脈穿刺により動脈血採血ができる。
15. 血液ガスサンプルの採取、測定が正しく行なえる。
16. 動脈カテーテルを挿入できる。
17. 動脈ラインからの動脈血採血ができる。
18. 中心静脈カテーテルを挿入し、中心静脈圧を評価できる。
19. 肺動脈カテーテルを挿入し、血行動態評価ができる。
20. 経食道心エコー法により心臓、大血管の基本的評価ができる。
21. 経鼻胃管を挿入できる。

### 術後管理に関する一般的目標

1. 麻酔や手術後に起こる合併症を把握できる。
2. 麻酔合併症に対して適切な対処ができる。
3. 酸素投与法の種類と特徴、酸素流量と吸入酸素濃度の関係について説明できる。

	<p>4. 術後酸素投与の指示ができる。</p> <p>5. 非ステロイド性鎮痛薬を用いた術後鎮痛法を実施できる。</p> <p>6. オピオイドを用いた鎮痛法を実施できる。</p> <p>7. 硬膜外鎮痛ができる。</p> <p>8. 患者制御鎮痛法（PCA）の基本設定ができる。</p> <p>9. 人工呼吸器の設定ができる。</p>
2年次以降	1年次終了までに希望コースを選択する。厚労省認定標榜医（日本麻酔科学会認定医）の取得を目指すコース、専門医取得コースの2つの進路がある。
スタッフ紹介	輪嶋 善一郎 科長・教授 (日本麻酔科学会専門医・指導医) (日本ペインクリニック学会専門医)
	杉 正俊 臨床講師 (日本麻酔科学会専門医) (日本救急医学会救急科専門医)
	西山 隆久 臨床講師 (日本麻酔科学会専門医・指導医) (日本ペインクリニック学会専門医) (日本集中治療医学会専門医)
	岩瀬 直人 助教 (日本麻酔科学会専門医・指導医) (日本ペインクリニック学会専門医)
	富野 美紀子 助教 (日本麻酔科学会指導医) (日本心臓血管麻酔学会専門医) (JB-POT(日本周術期経食道認定医)) (日本小児麻酔学会認定医)
	高橋 奈々恵 助教 (日本歯科麻酔学会専門医)
	前田 亮二 助教 (日本麻酔科学会専門医) (日本老年麻酔学会認定医)
	大嶽 宏明 助教 (日本麻酔科学会専門医) (JB-POT(日本周術期経食道認定医))
	奥山 亮介 助教 (日本麻酔科学会専門医)